

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ 設置者	カフクホクシン ニホンフクシダイガク 学校法人 日本福祉大学								
フリガナ 大学の名称	ニホンフクシダイガクダクイン 日本福祉大学大学院 (Nihon Fukushi University Graduate School)								
大学本部の位置	愛知県知多郡美浜町大字奥田字会下前35番6								
大学の目的	日本福祉大学は教育基本法と建学の精神「この悩める時代の苦難に身をもって当たり大慈悲心大友愛心を身に負うて社会の革新と進歩のために挺身する志の人を輩出する」に則り、教育標語「万人の福祉のために真実と慈愛と献身を」のもと、人間および社会に関する諸科学を総合的に教授研究し、高潔なる人格と豊かなる思想感情を培い、社会にとって有為な専門家であり、かつ地域社会に貢献できる人材を養成することを目的とし、広く人類社会の発展に寄与することを使命とする。								
新設学部等の目的	複雑で多様な社会環境から発せられる保健・医療・福祉におけるさまざまな健康にかかわるニーズに対して、本学が目指す“ふつうのくらしのしあわせ”(Well-being for All)をふまえ、看護学の専門的探求を通じて、学問的根拠をもって応えることができる研究力や教育力を有する人材を育成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	看護学研究科 [Graduate School of Nursing Science] 看護学専攻 [Division of Nursing Science] 計	年	人	年次人	人	修士(看護学) (Master of Nursing Science)	令和2年4月 第1年次	愛知県東海市大田町川南新田229	
		2	10	-	20			【基礎となる学部】 看護学部看護学科	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	令和2年4月名称変更予定 日本福祉大学 子ども発達学部→教育・心理学部 子ども発達学部 心理臨床学科→心理学科								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	看護学研究科 看護学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30 単位			
		22 科目	8 科目	0 科目	30 科目				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	看護学研究科 看護学専攻 修士課程	人	人	人	人	人	人	人	
		9	7	0	0	16	0	2	
		(9)	(7)	(0)	(0)	(16)	(0)	(2)	
	計	9	7	0	0	16	0	-	
		(9)	(7)	(0)	(0)	(16)	(0)	-	
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 修士課程 (通信教育)	14	5	0	0	19	0	7	
		(14)	(5)	(0)	(0)	(19)	(0)	(7)	
	社会福祉学研究科 心理臨床専攻 修士課程	3	7	0	0	10	0	6	
		(3)	(7)	(0)	(0)	(10)	(0)	(6)	
	医療福祉マネジメント研究科 医療福祉マネジメント専攻 修士課程	12	3	0	0	15	0	8	
		(14)	(3)	(0)	(0)	(17)	(0)	(8)	
	国際社会開発研究科 国際社会開発専攻 修士課程 (通信教育)	6	0	0	0	6	0	10	
	(6)	(0)	(0)	(0)	(6)	(0)	(10)		
福祉社会開発研究科 社会福祉学専攻 博士課程	10	1	0	0	11	0	0		
	(12)	(1)	(0)	(0)	(13)	(0)	(0)		
福祉社会開発研究科 福祉経営専攻 博士課程	5	0	0	0	5	0	0		
	(5)	(0)	(0)	(0)	(5)	(0)	(0)		
福祉社会開発研究科 国際社会開発専攻 博士課程 (通信教育)	5	0	0	0	5	0	2		
	(5)	(0)	(0)	(0)	(5)	(0)	(2)		
	計	38	15	0	0	53	0	-	
		(40)	(15)	(0)	(0)	(55)	(0)	-	
	合計	47	22	0	0	69	0	-	
		(49)	(22)	(0)	(0)	(71)	(0)	-	

教員以外の職員 の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		105 (106) 人	37 (36) 人	142 (142) 人					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)	1 (1)	2 (2)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計		106 (107)	38 (37)	144 (144)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	175,697.85 m ²	0 m ²	0 m ²	175,697.85 m ²	東海校地 借用面積 7,664.58m ² 借用期間 2013年9月～ 2035年3月				
	運 動 場 用 地	58,263.63 m ²	0 m ²	0 m ²	58,263.63 m ²					
	小 計	233,961.48 m ²	0 m ²	0 m ²	233,961.48 m ²					
	そ の 他	35,892.68 m ²	0 m ²	0 m ²	35,892.68 m ²					
	合 計	269,854.16 m ²	0 m ²	0 m ²	269,854.16 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		78,969.05 m ² (78,969.05 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	78,969.05 m ² (78,969.05 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	132室	147 室	101 室	13 室 (補助職員30人)	0 室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数						
	看護学研究科 看護学専攻			20 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 図書 577,830冊 〔113,206冊〕 学術雑誌 4,989種 〔 1,167種〕 電子ジャーナル 7,432種 〔 5,924種〕		
	看護学研究科 看護学専攻	2,927 [55] (2,927 [55])	42 [3] (42 [3])	3,782 [2,342] (3,782 [2,342])	157 (157)	0 (0)	0 (0)			
	計	2,927 [55] (2,927 [55])	42 [3] (42 [3])	3,782 [2,342] (3,782 [2,342])	157 (157)	0 (0)	0 (0)			
図 書 館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数					
	5,184.56 m ²		905 席		788,625 冊					
体 育 館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
	3,718.29 m ²		球技場、野球場、アーチェリー場、屋内練習場、武道場、プール（1施設）、トレーニング室（1施設）、テニスコート（4面+2面）							
経費の見積り 及び維持方法 の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	※研究科単位での算出不能なため、学部との合計 ※共同研究費等は大学全体 ※図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
		教員1人当り研究費等		550千円	550千円					
		共同研究費等		15,600千円	15,600千円					
		図書購入費	4,028千円	5,586千円	5,586千円					
	設備購入費	3,931千円	0千円	0千円						
学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	1,150千円	950千円	千円	千円	千円	千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資金運用・事業収入等を充当する。							

大 学 の 名 称		日本福祉大学							既設大学等の状況	
学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地		
	年	人	年次人 3年次	人		倍				
社会福祉学部 社会福祉学科	4	400	40	1,770	学士 (社会福祉学)	1.00	昭和32年度	愛知県知多郡美浜町 大字奥田字会下前35番6	平成29年度より 定員変更	
経済学部 経済学科	4	200	—	800	学士 (経済学)	0.97	昭和51年度	愛知県東海市大田町 川南新田229		
健康科学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻	4	40	—	160	学士 (健康科学)	1.08 1.04 1.21	平成20年度	愛知県半田市東生見町 26番2		
作業療法専攻	4	40	—	160	学士 (健康科学)	1.12	平成20年度	同 上		
介護学専攻	4	40	—	160	学士 (健康科学)	0.78	平成20年度	同 上		
福祉工学科	4	70	—	280	学士 (健康科学)	1.15	平成20年度	同 上		
子ども発達学部 子ども発達学科	4	215	—	755	学士 (子ども発達)	0.91 0.90	平成20年度	愛知県知多郡美浜町 大字奥田字会下前35番6		平成31年度より 定員変更
心理臨床学科	4	100	—	505	学士 (心理臨床学)	0.94	平成20年度	同 上		
国際福祉開発学部 国際福祉開発学科	4	80	—	320	学士 (国際福祉開発学)	0.90 0.90	平成20年度	愛知県東海市大田町 川南新田229		平成31年度より 定員変更
看護学部 看護学科	4	100	—	400	学士 (看護学)	1.03 1.03	平成27年度	同 上		
スポーツ科学部 スポーツ科学科	4	180	—	360	学士 (スポーツ科学)	1.06 1.06	平成29年度	愛知県知多郡美浜町 大字奥田字会下前35番6		
福祉経営学部 医療・福祉マネジメント学科 (通信教育)	4	800	400	4,000	学士 (福祉経営学)	0.80 0.80	平成15年度	同 上		
大 学 の 名 称		日本福祉大学大学院								既設大学等の状況
学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地		
	年	人	年次人	人		倍				
社会福祉学研究科 心理臨床専攻修士課程	2	10	—	20	修士 (心理臨床)	1.16 1.05	平成15年度	愛知県名古屋市中区 千代田五丁目22番35号		
社会福祉学専攻修士課程 (通信教育)	2	30	—	60	修士 (社会福祉学)	1.20	平成16年度	同 上		
医療・福祉マネジメント研究科 医療・福祉マネジメント専攻 修士課程	2	30	—	60	修士 (医療・福祉 マネジメント)	0.85 0.85	平成21年度	愛知県名古屋市中区 千代田五丁目22番35号		
国際社会開発研究科 国際社会開発専攻 修士課程(通信教育)	2	25	—	50	修士 (開発学)	0.74 0.74	平成14年度	愛知県名古屋市中区 千代田五丁目22番35号		
福祉社会開発研究科 社会福祉学専攻博士課程	3	8	—	24	博士 (社会福祉学)	0.87 1.20	平成19年度	愛知県名古屋市中区 千代田五丁目22番35号		
福祉経営専攻博士課程	3	2	—	6	博士 (福祉経営)	0.33	平成19年度	同 上		
国際社会開発専攻 博士課程(通信教育)	3	4	—	12	博士 (開発学)	0.50	平成19年度	同 上		
附属施設の概要	なし									

教 育 課 程 等 の 概 要															
(看護学研究科看護学専攻修士課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
共通 科目	看護学研究方法特論Ⅰ	1前	2			○			3						共同
	看護学研究方法特論Ⅱ	1後	2			○			3						共同
	看護教育特論	1前	2			○			1	1					共同
	看護理論特論	1前		2		○			1					兼1	共同
	家族支援特論	1後		2		○			1	2					共同
	保健医療福祉システム特論	1前		2		○			1					兼1	共同
	地域協働特論	1後		2		○			2						共同
	国際フォレンジック看護学特論	1後		2		○			1						
小計(8科目)		—	6	10	0		—	8	3	0	0	0	兼2		
専門 科目	看護方法学 領域 看護方法学特論	1前		2		○			1	1					共同
	看護方法学実践論	1後		2		○			1	1					共同
	看護方法学特論演習	1通		4			○		1	1					共同
	成人看護学 領域 成人看護学特論	1前		2		○			1	1					共同
	成人看護学実践論	1後		2		○			1	1					共同
	成人看護学特論演習	1通		4			○		1	1					共同
	精神看護学 領域 精神看護学特論	1前		2		○			1	1					共同
	精神看護学実践論	1後		2		○			1	1					共同
	精神看護学特論演習	1通		4			○		1	1					共同
	地域看護学 領域 地域看護学特論	1前		2		○			1	2					共同
	地域看護学実践論	1後		2		○			1	2					共同
	地域看護学特論演習	1通		4			○		1	2					共同
	老年看護学 領域 老年看護学特論	1前		2		○			2	1					共同
	老年看護学実践論	1後		2		○			2	1					共同
	老年看護学特論演習	1通		4			○		2	1					共同
	ウイメンズヘルス 看護学領域 ウイメンズヘルス看護学特論	1前		2		○			1	1					共同
	ウイメンズヘルス看護学実践論	1後		2		○			1	1					共同
	ウイメンズヘルス看護学特論演習	1通		4			○		1	1					共同
	小児看護学 領域 小児看護学特論	1前		2		○			2						共同
	小児看護学実践論	1後		2		○			2						共同
	小児看護学特論演習	1通		4			○		2						共同
小計(21科目)		—	0	56	0		—	9	7	0	0	0	0		
研究 科目	特別研究	1通～2通	8				○		9	7					
	小計(1科目)		—	8	0	0	—	9	7	0	0	0	0		
合計(30科目)			—	14	66	0	—	9	7	0	0	0	兼2		
学位又は称号		修士(看護学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係(看護学関係)							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
本研究科に2年以上在学し、共通科目から10単位以上(必修6単位を含む)、専門科目から12単位以上(選択する看護学領域の8単位を含む)、特別研究8単位、合計30単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査および最終試験に合格すること。								1 学年の学期区分		2 期					
								1 学期の授業期間		15週					
								1 時限の授業時間		90分					

教 育 課 程 等 の 概 要														
(看護学研究科看護学専攻修士課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	看護学研究方法特論Ⅰ	1前	2			○			3					共同
	看護学研究方法特論Ⅱ	1後	2			○			3					共同
	看護教育特論	1前		2		○			1	1				共同
	看護理論特論	1前		2		○			1				兼1	共同
	家族支援特論	1後		2		○			1	2				共同
	保健医療福祉システム特論	1前		2		○			2				兼1	共同
	地域協働特論	1後		2		○			2					共同
	国際フォレンジック看護学特論	1後		2		○			1					共同
小計(8科目)		—	4	12	0	—		9	3	0	0	0	兼2	
専門科目	看護方法学領域	看護方法学特論	1前		2		○		1	1				共同
		看護方法学実践論	1後		2		○		1	1				共同
		看護方法学特論演習	1通		4		○			1	1			共同※演習
	成人看護学領域	成人看護学特論	1前		2		○		1	1				共同
		成人看護学実践論	1後		2		○		1	1				共同
		成人看護学特論演習	1通		4		○		1	1				共同※演習
	精神看護学領域	精神看護学特論	1前		2		○		1	1				共同
		精神看護学実践論	1後		2		○		1	1				共同
		精神看護学特論演習	1通		4		○		1	1				共同※演習
	地域看護学領域	地域看護学特論	1前		2		○		1	2				共同
		地域看護学実践論	1後		2		○		1	2				共同
		地域看護学特論演習	1通		4		○		1	2				共同※演習
	老年看護学領域	老年看護学特論	1前		2		○		1	1				共同
		老年看護学実践論	1後		2		○		1	1				共同
		老年看護学特論演習	1通		4		○		1	1				共同※演習
	看護学ヘルズ領域	ウイメンズヘルズ看護学特論	1前		2		○		1	1				共同
		ウイメンズヘルズ看護学実践論	1後		2		○		1	1				共同
		ウイメンズヘルズ看護学特論演習	1通		4		○		1	1				共同※演習
	小児看護学領域	小児看護学特論	1前		2		○		2					共同
		小児看護学実践論	1後		2		○		2					共同
		小児看護学特論演習	1通		4		○		2					共同※演習
小計(21科目)		—	0	56	0	—		8	7	0	0	0	0	
研究科目	特別研究	1通～2通	8				○		9	7				
	小計(1科目)		—	8	0	0	—		9	7	0	0	0	0
合計(30科目)			—	12	68	0	—		9	7	0	0	0	兼2
学位又は称号	修士(看護学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係(看護学関係)							
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
本研究科に2年以上在学し、共通科目から10単位以上(必修4単位を含む)、専門科目から12単位以上(選択する看護学領域の8単位を含む)、特別研究8単位、合計30単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査および最終試験に合格すること。								1学年の学期区分		2期				
								1学期の授業期間		15週				
								1時限の授業時間		90分				

教育課程等の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
総合基礎科目	英語コミュニケーションⅠ	1前	1				○								兼3	
	英語コミュニケーションⅡ	1前	1				○								兼3	
	英語コミュニケーションⅢ	1後	1				○								兼2	
	英語コミュニケーションⅣ	1後	1				○								兼2	
	基礎ゼミナールⅠ	1前	1				○		3	5						
	基礎ゼミナールⅡ	1後	1				○		3	5						
	化学	1前	2				○								兼1	
	情報処理演習	1前		2				○							兼1	
	健康・スポーツⅠ	1前		1				○							兼1	
	健康・スポーツⅡ	1後													兼1	
	日本の歴史	1前		4			○								兼1	
	心理学	1前		2			○								兼1	
	政治学	1前		2			○								兼1	
	哲学	1前		2			○								兼1	
	グローバル教養	1後		2			○								兼1	
	異文化理解	1前		2			○								兼1	
	法と社会(日本国憲法)	1通		4			○								兼1	
	社会学	1後		2			○								兼1	
	聴覚障害者の理解と支援	1前		1			○								兼1	メデイア
	知多学	1前		2			○								兼1	メデイア
	知多半島のふくし	2後		2			○								兼1	メデイア
	ふくしとフィールドワーク	1後		2			○								兼1	メデイア
	ふくしとフィールドワーク実践	3後		2			○								兼1	メデイア
	ふくしと減災コミュニティ	2後		2			○								兼1	メデイア
	福祉社会入門	1前		2			○								兼1	メデイア
	日本福祉大学の歴史	1前		2			○								兼1	メデイア
	地震と減災社会	1前		2			○								兼1	メデイア
	福祉の力	2前		2			○								兼1	メデイア
	ヒューマンケアのための多職種連携	1後		2			○								兼1	メデイア
小計(29科目)		—	8	44	0		—		3	5	0	0	0	兼30		
専門基礎科目	人間の形態と機能Ⅰ	1前	2			○								兼1		
	人間の形態と機能Ⅱ	1後	1			○								兼1		
	生化学	1後	1			○								兼1		
	微生物学	1後	1			○								兼1		
	人間工学	1前	1			○								兼1		
	ストレス心理学	1前	1			○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	人間関係論	1後	1			○			1							
	病理学	1後	1			○									兼3	
	疾病論（内科系）	2前	2			○				1					兼10	オムニバス
	疾病論（外科系）	2前	2			○			1						兼8	オムニバス
	疾病論（小児系）	2前	1			○									兼8	オムニバス
	疾病論（母性系）	2前	1			○									兼1	
	疾病論（精神系）	1後	1			○									兼1	
	臨床薬理学	2前	1			○									兼10	オムニバス
	臨床検査学	2後	1			○									兼7	オムニバス
	臨床栄養学	2後	1			○									兼1	
	健康管理学	1後	2			○			1							
	保健行動論	2後	2			○									兼1	
	公衆衛生学	2前	2			○									兼1	
	社会福祉学	1後	2			○									兼1	
	家族社会学	1後	2			○									兼1	
	疫学	2後	2			○									兼1	
	保健医療福祉政策論	2前	2			○			1							
保健医療統計学	2後	1			○									兼1		
老年学	2後		1		○									兼1		
小計（25科目）	—	—	34	1	0	—	—	—	4	1	0	0	0	兼59		
専門科目	看護学概論(概念・理論・歴史)	1前	2			○			1							
	看護管理概論	4後	2			○			1							
	看護倫理	1前	1			○			1							
	災害看護	2後	1			○				1						
	看護過程演習	2前	1				○		1	2		2			共同	
	看護技術演習Ⅰ	1後	2				○		1	2		2			共同※講義	
	看護技術演習Ⅱ	1後～2前	2				○		1	2		2			共同※講義	
	看護技術演習Ⅲ	2前	1				○		1	2		2			共同※講義	
	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1					○	1	2		2			共同	
	基礎看護学実習Ⅱ	2前	2					○	1	2		2			共同	
	成人看護学概論	2後	2			○			1	1					オムニバス	
	成人慢性期看護方法論	3前	2			○			1	1		3			共同※演習	
	成人急性期看護方法論	3前	2			○			1	1		3			共同※演習	
	老年看護学概論	2後	2			○			1							
	老年看護方法論	3前	2			○			1	1		1			共同※演習	
	小児看護学概論	2後	2			○			2						オムニバス	
小児看護方法論	3前	2			○			1			3			共同※演習		
母性看護学概論	2後	2			○			1	1					オムニバス		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	母性看護方法論	3前	2			○			1	1		1		共同※演習
	精神看護学概論	2後	2			○			1	1		2		オムニバス
	精神看護方法論	3前	2			○			1	1		2		共同※演習
	成人看護学慢性期実習	3後～4前	3					○	1	1		3		共同
	成人看護学急性期実習	3後～4前	3					○	1	1		3		共同
	老年看護学実習Ⅰ	2後	1					○	1	1		1		共同
	老年看護学実習Ⅱ	3前	1					○	1	1		1		共同
	老年看護学実習Ⅲ	3後～4前	2					○	1	1		1		共同
	小児看護学実習	3後～4前	2					○	2			3		共同
	母性看護学実習	3後～4前	2					○	1	1		1		共同
	精神看護学実習	3後～4前	2					○	1	1		2		共同
	在宅看護論	2後	2			○				1		1		オムニバス
	在宅看護方法論	3前	2					○	1	2		2		共同※演習
	在宅看護論実習	3後～4前	2					○	1	2		2		共同
	公衆衛生看護学概論	2後	2			○			1			1		オムニバス
	公衆衛生看護方法論Ⅰ	3前	2			○			1	1		2		共同※演習
	看護学研究方法論	3前	1			○			3					オムニバス
	卒業研究Ⅰ	3後	1					○	8	8				
	卒業研究Ⅱ	4前	1					○	8	8				
	看護統合実習	4前	2					○	7	6		12		共同
	多職種連携論	2後	1			○				2				兼6 オムニバス
	看護感染論	4後		2		○								兼2 オムニバス
	看護教育論	4後		2		○			2					オムニバス
	緩和ケア論	4後		2		○			1	1				オムニバス
	リハビリテーション看護論	4後		2		○								兼2 オムニバス
	国際看護論	2後		2		○			1	1				オムニバス
	家族看護論	4後		2		○			1	1				オムニバス
	統合看護基礎技術演習	4後		1				○	2	5		1		共同
	チーム医療連携演習	4後		1					3					共同
	多職種連携実践論	2後		1		○			1					
	国際保健演習	4後		1		○			1	1				共同
	公衆衛生看護方法論Ⅱ	4前		2		○			1	1		2		共同※演習
	公衆衛生看護方法論Ⅲ	4前		2		○			1	1		2		共同※演習
公衆衛生看護管理活動論	4前		2		○			1	1				オムニバス	
公衆衛生看護学実習Ⅰ	4前		3				○	1	2		2		共同	
公衆衛生看護学実習Ⅱ	4前		2				○	1	2		2		共同	
小計（53科目）	—		69	27	0		—	8	8	0	12	0	兼10	
合計（102科目）	—		111	72	0		—	9	8	0	12	0	兼99	
学位又は称号	学士(看護学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係(看護学関係)							

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
4年間以上在学するとともに、総合基礎科目16単位以上、専門基礎科目・専門科目108単位以上、計124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限：48単位(年間))						1学年の学期区分				2期				
						1学期の授業期間				15週				
						1時限の授業時間				90分				

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻修士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護学研究方法特論Ⅰ	多様な看護活動における看護現象を研究課題として、看護実践の質向上に繋がり、ひいては看護学の体系化に資する研究を継続して実施していくための基本的な看護研究方法に関する知識を身につけるために、一連の研究過程について学修する。研究課題を明確にするための文献検索と研究論文に対するクリティーク、研究課題を達成するための種々の具体的研究方法の概要と研究計画作成の基盤となる知識を習得し、また、研究の実施に必要な研究倫理などの基本姿勢への理解を深める。	共同
	看護学研究方法特論Ⅱ	研究疑問を明らかにするという研究目的の達成に適切な研究デザインと質的および量的データ収集の具体的方法の特徴と適用を詳細に学修し、研究計画作成に活用し実施できる知識を習得する。特に、質問紙調査法の質問票作成・インタビュー方法と質問内容決定・実験方法と実験項目などは目的と分析方法とを関連させながら検討する重要性を理解し、確実に実施・分析できるよう詳細に学ぶ。	共同
	看護教育特論	専門職としての看護職が備えるべき教育技法を展開する力を培うために、教育の基本原則と方法の理解を深め、専門職養成教育および技術教育の特質を知り、適切な教育方法および効果評価に関する知識と実際を学修する。看護活動の対象者のみならず、自己、同僚、看護学生などへの教育指導展開について、既存のガイドラインなどを交えながら知識を深める。看護制度における基礎教育・継続教育・自己研鑽などの教育のあり方と課題について、他の専門職や他の国などと比較検討を重ねながら考察する。	共同
	看護理論特論	看護学の体系化に資する研究を継続するための基盤として、多様な臨床現場の看護現象を説明するための基本となる既存の看護理論について広く学び、看護理論の意義や必要性、理論構築過程について理解を深める。また、看護理論の発展の歴史的背景や、大理論や中範囲理論の代表的な理論について哲学的基盤・主要概念・適用範囲など、看護実践や教育、研究への活用について学修し、自らの関心領域や研究課題に関連して、特定の看護理論及び諸理論の適用の妥当性について検証し具体的な活用できる力を培う。	共同
	家族支援特論	近年の少子高齢社会に伴う、保健・医療・福祉制度の変遷に関連して、健康問題を有しながら生活する個人とその家族を取り巻く環境は大きく変化し、家族への負担が大きくなっている。家族員の健康問題に関わる生活上のニーズに応じて、家族がどのような対応や変化を求められるのかを推察しながら、家族の健康や生活について、系統的なアセスメントを行うための知識や技術を学修する。また、その家族全体への支援を計画する上で有用な家族看護学の代表的理論やモデルについて学習し、その実践的な活用について理解を深める。	共同
	保健医療福祉システム特論	看護学研究の課題と成果は看護活動に還元される。看護活動は社会で展開され、社会を動かす保健・医療・福祉政策との関連を理解することは重要である。本科目では、世界および日本で展開されている保健・医療・福祉政策の基本的考え方や政策決定過程とその影響要因を知るとともに、実際の医療などに関する今日的課題や将来予測まで広く学ぶ。特に、政策過程にも科学的根拠は重要であり、看護学研究の意義も理解する。また、実例などを用いながら、医療政策に関する基礎的知識を学び、現状の医療政策分析から新たな政策提案を行う際の視点の整理などを行い、各自が保健医療福祉政策に対する建設的意見を生成できる力を培う。	共同
	地域協働特論	看護活動はあらゆる健康状態の人々へ展開し、関連職種の人々との連携活動も多様である。地域連携活動の実例を通して、地域で生活する個人・家族の尊厳の保持、自立生活の支援を目指し、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができる多機関や多職種との連携・協働について学ぶ。また模擬事例や文献を通してケースマネジメント、多職種連携によるチーム支援を推進し、地域連携において展開できる能力を培う。	共同
	国際フォレンジック看護学特論	暴力と虐待の被害者と加害者への特別なケアであるフォレンジック看護について、国際的な視点から理解を深める。具体的には、地域や国家間の紛争、テロ、災害、女性・子ども・高齢者等への暴力、犯罪、人身取引の背景と、被害者と加害者のケアについて学ぶ。受刑者や検死に関わる内容についてフォレンジックの対象として理解する。これらの研究・実践について学び、看護の役割と方向性について考察する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻修士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護方法学特論	専門職である看護職の活動に必要な、多様な活動対象と状況に適した手法を選択し実現する力の基盤の1つとして、看護活動の対象者と看護者である人間に関する行動科学・脳科学的知見は重要である。それらを含めた学際的諸理論を活用して看護活動を分析し、効果検証方法や科学的根拠への理解を深め、その一連の過程を通して看護活動の在り方を探り、活動の方法としての各技術や管理について検討する。このように、看護の展開方法をより深く理解して今後の看護課題などを明らかにし、専門職としてのより強い活動力と新たな方法開発力を培う。	共同
	看護方法学実践論	様々な看護展開場面を題材として、特論で学修した諸理論を用いて深く分析し、看護展開の方法である実践の在り方・技術の捉え方・看護管理の進め方などを立体的複合的に検討し、看護活動そのものの在り方と今後の展望を考察する。とすれば狭義の技法と捉え易い「方法」を、広義に捉え、看護活動の本質に迫ることにより、自身の看護論・実践論を明確にできる力を培う。	共同
	看護方法学特論演習	特論・実践論で学修した看護技術・看護管理・看護教育を含む広義の看護方法に関して、学生個々が興味や関心を抱いた主題や疑問に焦点をおき、その効果やメカニズムを検証するより絞込んだ既存文献を検討して更に深く絞り込んで研究課題を明確にしていく。そして解明に必要な生理機能的実験などを含む介入実験や各種の調査方法などの手法で追試するなど、研究活動を進めていく方法への学生の理解を高める。	共同
	成人看護学特論	健康問題を抱えた成人期にある人々とその家族を対象に、発達課題および生活者としての社会的状況をふまえた療養上の課題について理解を深め、さらに看護活動の基盤となる概念と理論の歴史的背景および理論構造を探索し、看護実践能力向上への確実な適用について追求する能力を培う。具体的には、急性期・慢性期にある成人の健康問題の特徴、セルフケア理論、病みの軌跡理論、ストレス・コーピング理論、危機理論、ボディイメージ、悲哀・悲嘆について、成人看護学領域での研究成果をふまえながら、看護実践への具体的な適用について検討する。	共同
	成人看護学実践論	健康問題を抱えた成人期にある人々とその家族を対象に、最新の医療の動向をふまえ、より専門的でエビデンスに基づいた看護実践の修得に向けた知識と技術を学修し、看護のあり方と役割および専門性を検討できる力を培う。具体的には、治療法を中心とした最新医療の探求と、ヘルスアセスメント、疼痛コントロール、心理的援助技術、セルフマネジメントに向けた教育支援、成人看護学領域における多職種チームのあり方について、事例や成人看護学領域の文献を活用しながら修得し、看護実践能力を向上させる活用方法について検討する。	共同
	成人看護学特論演習	成人期にある対象の多岐にわたる研究課題の中から、明らかにしたい事象について、ディスカッションや国内外の文献の系統的なレビューを通して、取り組むべき課題を明確にしていく研究プロセスについて学修する。研究課題の焦点化に向けて、関連のある施設の見学や専門家とのディスカッションにより、知見を広め、研究計画の立案に向けた基盤形成を行う。	共同
	精神看護学特論	看護方法の提供を検討する上で、精神の健康状態について確実に評価できる力を培うために、精神病理のアセスメントと診断のための概念と理論を学ぶ。また、看護介入として、対象のライフステージに応じた精神領域の個別のセラピーを行えるように、精神領域で適用される、身体医学的治療、薬物療法、社会心理的療法について学ぶ。心理社会的療法については、訓練を受けた専門家が言語を用いて実施する精神心理療法[精神分析、交流分析、人間関係アプローチ、実存主義的アプローチ、認知行動療法など]に加え、病理に直接働きかける精神療法、さらには広義の精神療法について、概念・理論・研究・実践の基本を学ぶ。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻修士課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	精神看護学実践論	個人・集団・家族療法と援助に関して、討論、模擬事例、ロールプレイ、視覚的教材、体験学習を通して、複雑な場面でのアセスメントと対人的関係技術の適用を含めた、高度な看護実践における活用・応用力を養う。具体的には、さまざまな症状を持つ個人とその家族への認知行動療法の適用および訪問支援の模擬事例演習、家族へのシステムズアプローチ理論の展開、集団特性理解としてグループによる体験トレーニングを含む。学生が興味を持つ現象、援助について、文献検討で概念付けし、系統的に捉え理解する。	共同
	精神看護学特論演習	国内外の文献の系統的レビューや実践活動をとおして、各自が探求したい課題を選定する。選定した課題を焦点化し、適切な研究方法を選び、実施可能な研究計画書の立案に取り組む。	共同
	地域看護学特論	地域看護(在宅看護・公衆衛生看護)における、個人・家族や集団を理解し、住民と協働する地域看護について学ぶ。さらに地域看護における主要な概念と理論を理解し、看護実践の適用について学ぶ。 具体的には、地域看護活動で重要な、保健医療福祉の現状、地域看護の変遷、在宅看護や公衆衛生看護の動向、国際生活機能分類の構成要素と相互の働き、コミュニティ・アズ・パートナーモデル、プリシード・プロシードモデル、様々な保健行動理論、介護予防、健康格差、多職種連携などについて、地域看護学領域の国内外の文献検討し、討議を通して学びを深める。	共同
	地域看護学実践論	地域社会で生活している人々のライフステージ、価値観や健康課題をふまえ、人々の健康の保持増進や予防、生活の質の向上に向けたより専門的な看護実践の知識と技術を学修する。また、最近の保健医療福祉動向や地域における健康課題の現状を踏まえ、看護の実践現場への活用について専門性を追究する。 具体的には、障害がありながら地域で生活する人々、子育て、介護予防、生活困窮者や在日外国人支援や産業看護などの文献を活用し、看護実践への活用について検討する。	共同
	地域看護学特論演習	行政、訪問看護ステーション、医療機関、福祉機関、企業(事業所)やNPO法人など地域で行われている看護実践を通して明らかにしたい事象について、系統的な文献レビューを行い討議を通して理解する。取り組む研究課題を明確にし、研究計画立案の研究プロセスを学修する。また、地域看護(在宅看護、公衆衛生看護)の関連した実践のフィールドワークや専門家との意見交換と討議を通して深く理解し、研究課題に活かせるよう検討する。	共同
	老年看護学特論	高齢者看護に関する研究を実践するために必要な概念・理論を、健康生涯を持つ高齢者やその家族を対象とした研究、および介護施設(医療施設を含む)における看護ケアに関する研究を通して理解を深める。また、高齢者に関する倫理的課題について考察する。具体的には、自己決定、セルフケア、レジリエンス、エンパワーメント、自己効力感、パーソンセンタードケア、エイジズム、高齢者虐待、身体拘束、セクシュアリティなどに関して書かれた文献を使ってディスカッションすることにより理解を深める。それらの概念・理論の中から興味あるものを選び、その概念・理論をどのように高齢者看護に適用するのかについて検討し、プレゼンテーションする。	共同
	老年看護学実践論	高齢患者やその看護・介護者に関する国内外の研究論文を通して現状や問題について理解を深める。国内外の文献クリティークを通して、高齢者看護に関する現状や問題を明確にし、その課題や問題に対しての援助・支援方法を検討する。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻修士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	老年看護学特論演習	高齢者看護領域で関心のあるテーマに関連した文献クリティックを重ね、文献検討を完成させる。文献検討を基に、リサーチクエスト・研究課題を明確にしていく。また文献検討を通して、研究課題に関連した研究方法・分析方法の理解を深める。それらを基に、研究デザイン・研究対象・データの収集方法・分析方法を検討する。また、倫理的配慮についても検討し、研究計画書を作成していく。	共同
	ウィメンズヘルス看護学特論	ウィメンズヘルスの対象となる女性やその家族について保健医療福祉の動向をふまえ、女性の生涯の性と生殖の健康支援についての健康意識を高め、自らが意思決定し、エンパワメントできる看護の基本となる理論について理解を深め、専門職としての課題やそれに役立つ研究課題の主体的探究力を培う。 具体的には、母子からとらえた保健医療福祉の現状、女性の健康と基本理論、女性の健康とセクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ、女性の健康決定要因、生殖補助医療と生命倫理、女性の健康とプレコンセプションヘルス・ヘルスプロモーションや国際母子保健、外国人の妊娠・出産と子育てなどの内容について、既存文献検討などを通して学修する。	共同
	ウィメンズヘルス看護学実践論	ウィメンズヘルスの対象となる女性のライフサイクルに応じた援助方法、マタニティサイクル各期における女性の生む力をひきだし、自然で安心な根拠に基づいた援助方法について理解を深め、他職種との連携やソーシャルサポートについての必要な知識の習得を図り、自らの看護実践能力を高める。 具体的には、思春期・更年期・育児期にある女性の健康課題とその支援、不妊とその支援、性周期と婦人科疾患の支援、ライフサイクル各期における女性とその家族への支援について学修する。また、科学的根拠に基づく快適で安全な妊娠出産のためのガイドライン、エビデンスに基づく助産ガイドライン、周産期母子医療システム、ドゥーラと豊かな出産体験、母乳育児支援、産後ケアと家族のメンタルヘルス、周産期における地域包括支援・ネットワーク活動などについても、既存文献や受講生の経験などを通して深く検討する。	共同
	ウィメンズヘルス看護学特論演習	ウィメンズヘルス領域に関する重要な研究課題を中心に文献講読を行い、自己の専攻領域における専門性を深めると同時に、研究課題や研究計画を明確にする。具体的には、研究論文の読み方を再度学修するとともに、ウィメンズヘルス領域に関する重要な研究課題を中心に文献講読とディスカッションを行い、研究計画作成の基盤となる知識や技術を習得する。 また、国内外で先駆的な活動をしている病院や助産院における実践活動の見学や研修の機会に参加し、自己の研究課題を探索する。	共同
	小児看護学特論	発達途上にある小児の身体的・精神的・社会的発達に関する基礎的理論を深く学び、理解を深めるとともに、小児看護の実践現場で遭遇するさまざまな子どもの健康上の問題や発達環境にかかわる問題などについて、既存の文献をもとに、子ども本人および家族、さらには地域や社会の視点から広くとらえて学修する。 また、最近の小児看護学領域の研究の動向や、研究を進める上での倫理的課題など、小児看護学研究の特徴についての理解を深め、自らの研究遂行の基盤を形成する。	共同
	小児看護学実践論	発達途上にある小児が順調に成長発達を遂げるためには、小児本人の生得的素因はもとより、彼らを取り巻くさまざまな人的・物的環境も不可欠である。なかでも、種々の慢性的な健康問題を有しながら社会で生活する子どもたちに対しては、その家族をも含めた適切な援助や支援体制が保障されなければならない。本科目では、慢性疾患や先天性の疾患やしょうがいなどを有しながら生活する子どもたちへの具体的援助の方法について、既存の文献をもとに学修し、理解を深めるとともに、実践現場での活用についての提案につなげる。	共同
	小児看護学特論演習	看護学研究方法についての基本的な知識の学習をもとに、小児看護学領域における既存の研究論文等の文献検討から、さまざまな小児看護学研究のプロセス、方法、結果の導き方などについて、具体的に学ぶ。また、自らの研究疑問の課題としての明確化や、課題に即した研究方法の選択の適切性などについて、深く探求し、研究計画を完成させるための討議や演習を行う。 上記に並行して、研究課題に関連する実践現場への理解を深めるために、院生個々のニーズに合わせて、演習による学習を企画して実施する。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻修士課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研 究 科 目	特別研究	<p>(概要) 学生自らの主体的問題意識から発する各看護学分野における研究疑問を、既存文献検討を経て研究課題を明確にして、解明に適切な手法による実行可能な具体的研究計画と計画の実施に必要な倫理申請書を作成して実施し、得られた結果を十分に解釈して研究課題を解明し、それらを論文として完成させるとともに口頭発表する。この一連の過程に必要な方法の知識・技術・態度を十分な指導により学修し、看護現象の探求から看護学の知識形成する力を強化させ、研究に取り組む真摯な姿勢と自立した研究者を目指す力を獲得する。</p> <p>看護方法学領域〔宮腰由紀子・新美綾子〕 看護技術・看護教育などの看護方法に関する研究課題を明確にし、研究プロセスをふまえて主体的に取り組み、修士論文を作成する。</p> <p>成人看護学領域〔白尾久美子・大野晶子〕 成人看護学領域に関わる患者および家族の早期回復に向けた身体的・心理的ケアや、がんを含めた慢性疾患に対するセルフケア促進に向けたケアなど、解決すべき研究課題を明確にし、研究プロセスをふまえて主体的に取り組み、修士論文を作成する。</p> <p>精神看護学領域〔長江美代子・古澤亜矢子〕 精神看護及び保健に関する課題の中で、家族・職場・医療・地域社会などの関係性によって生じる精神的健康問題や精神病理に関する研究課題を明確にし、研究プロセスをふまえて修士論文を作成する。</p> <p>地域看護学領域〔水谷聖子・大橋裕子・森礼子〕 地域社会で生活する人々のライフステージや価値観、様々な健康課題をふまえて、健康マイノリティや在留外国人を含めた生活の質の向上に向けた研究課題を明確にし、研究プロセスをふまえて修士論文を作成する。</p> <p>老年看護学領域〔天野瑞枝・平田弘美・木村暢男〕 様々な健康障害をもつ高齢者や高齢者を看護・介護する人々に関わる研究課題を明確にし、研究プロセスをふまえて修士論文を作成する。</p> <p>ウィメンズヘルス看護学領域〔岡田由香・大橋幸美〕 ウィメンズヘルス領域における実践的ケアの質向上のために、ライフサイクルやマタニティサイクルに対応した女性及びその家族に対する健康支援について研究課題を明確にし、研究プロセスをふまえて修士論文を作成する。</p> <p>小児看護学領域〔山口桂子・河合洋子〕 様々な健康レベルにある子どもと家族の看護や小児看護学教育に関する研究課題を明確にし、記述的研究や支援に関わるケア研究などの研究実施のプロセスをふまえて、主体的に取り組み、修士論文を作成する。</p>	

学校法人日本福祉大学 設置認可等に関わる組織の移行図

2019年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	2020年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
日本福祉大学				日本福祉大学				
社会福祉学部	3年次			社会福祉学部	3年次			
社会福祉学科	400	40	1,680	社会福祉学科	400	40	1,680	
経済学部				経済学部				
経済学科	200	-	800	経済学科	200	-	800	
健康科学部				健康科学部				
リハビリテーション学科				リハビリテーション学科				
理学療法学専攻	40	-	160	理学療法学専攻	40	-	160	
作業療法学専攻	40	-	160	作業療法学専攻	40	-	160	
介護学専攻	40	-	160	介護学専攻	40	-	160	
福祉工学科	70	-	280	福祉工学科	70	-	280	
子ども発達学部				<u>教育・心理学部</u>				名称変更
子ども発達学科	215	-	860	子ども発達学科	215	-	860	
心理臨床学科	100	-	400	<u>心理学科</u>	100	-	400	名称変更
国際福祉開発学部				国際福祉開発学部				
国際福祉開発学科	80	-	320	国際福祉開発学科	80	-	320	
福祉経営学部	3年次			福祉経営学部	3年次			
医療・福祉マネジメント学科 (通信教育)	800	400	4,000	医療・福祉マネジメント学科 (通信教育)	800	400	4,000	
看護学部				看護学部				
看護学科	100	-	400	看護学科	100	-	400	
スポーツ科学部				スポーツ科学部				
スポーツ科学科	180	-	720	スポーツ科学科	180	-	720	
計	2,265	440	9,940	計	2,265	440	9,940	
日本福祉大学大学院				日本福祉大学大学院				
社会福祉学研究科				社会福祉学研究科				
社会福祉学専攻修士課程 (通信教育)	30	-	60	社会福祉学専攻修士課程 (通信教育)	30	-	60	
心理臨床専攻修士課程	10	-	20	心理臨床専攻修士課程	10	-	20	
国際社会開発研究科				国際社会開発研究科				
国際社会開発専攻修士課程 (通信教育)	25	-	50	国際社会開発専攻修士課程 (通信教育)	25	-	50	
医療・福祉マネジメント研究科				医療・福祉マネジメント研究科				
医療・福祉マネジメント専攻 修士課程	30	-	60	医療・福祉マネジメント専攻 修士課程	30	-	60	
福祉社会開発研究科				福祉社会開発研究科				
社会福祉学専攻博士課程	8	-	24	社会福祉学専攻博士課程	8	-	24	
福祉経営専攻博士課程	2	-	6	福祉経営専攻博士課程	2	-	6	
国際社会開発専攻博士課程 (通信教育)	4	-	12	国際社会開発専攻博士課程 (通信教育)	4	-	12	
計	109	-	232	計	119	-	252	研究科の設置 (認可申請)
				<u>看護学研究科</u>				
				<u>看護学専攻修士課程</u>	<u>10</u>	-	<u>20</u>	